



放射線リスクコミュニケーション

相談員支援センター だより



特定廃棄物と埋立処分事業の情報発信 特定廃棄物埋立情報館リプルんふくしま



特定廃棄物埋立情報館リプルんふくしまは平成30年8月に富岡町に開所しました。この施設は、汚染された廃棄物を処分する特定廃棄物埋立処分事業のプロセスや安全への取り組み、処分の進捗状況やモニタリングの結果などの情報を発信する施設として環境省が設置しました。一般公募で決まった「リプルん」の名称には「リ・プロデュース」という再生・復興への思いが込められています。

—東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の発生から9年が経過しましたが、利用者はどのような方が多い印象ですか。

福島県内外から幅広い年齢層の方にご来館いただいております。今年に入って、開館当初は少なかった学校のご利用が増え、それに伴い10代の利用者が増えています。富岡町、楡葉町の学校をはじめとして、県外の学校からも見学に来ていただきました。遠方からも見学に来ていただき、大変嬉しく思っております。

—展示に加えて様々な体験イベントを開催されていますが、企画の際に気を付けていることはありますか。

来ていただいた方が実際に体験できる参加体験型のイベントになるように工夫をしています。また、なるべく専門用語を使わず、分かりやすく丁寧な言葉で話すことで、参加しやすい雰囲気づくりをすることを心がけています。幅広い年齢層の方にご利用いただけるよう、子どもやファミリー向けのイベントや、ご高齢の方にも参加したいと思っただけのようなイベントを企画するようにしています。

—これまでに開催したイベントにはどのようなものがあるのでしょうか。

子どもやファミリー向けのイベントだと、牛乳パック等の身近なものを使って工作をする「エコ工作」や、モニタリングフィールドに咲いている花を押し花にしてしおりを作るイベントを開催しました。また、昨年開催した「絵手紙教室」では、比較的高い年齢層の方にも多く足を運んでいただき、リプルんふくしまを知ってもらうことができましたのでとても良かったと思います。

——幅広い方が有意義な時間を過ごせるようにイベント一つ一つに工夫が凝らされているのですね。利用者の方から放射線に関する不安の声やご相談等がありますか。

放射線に限らず、不安の声やご意見などをいただくことがあります。私たちが気をつけていることとして、どうしても説明や案内となると、一方的にずっと話してしまうことになりがちなので、できるだけ利用者の方にお話しいただくなどの聞く姿勢を意識しています。そうした中で質問をいただくこともあるので、気持ちに寄り添いながら答えられるように心がけています。

——様々な声に耳を傾け、コミュニケーションをとることは不安を解消する糸口として、とても大切だと思います。

利用者の方からの質問に答えること以外にも、特定廃棄物の埋立処分場に実際に足を運んでいただくことや、モニタリング体験に参加いただくこともあります。安全に対する取組みを実感していただくことによって、疑問や不安が解消した、和らいだとおっしゃっていただけることがあります。

——まもなくオープンから2年が経ちますが、今後の展望や課題はありますか。

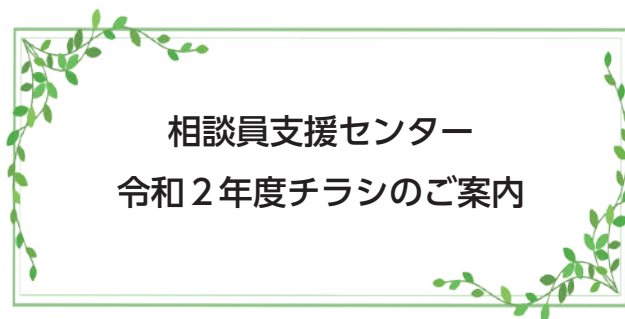
これまで多くの方にご来館いただいておりますが、まだまだ地元の方でも、リプルンふくしまを知らない方がいらっしゃいます。そうした方々にどのようにして情報を正確にお届けするかを引き続き考えていかなければならないと思っています。

それから、埋立処分事業について、安全に作業を進め、順調に進捗しているということを情報発信していくことは、今後ずっと継続して求められることだと考えております。また、それについてのお問い合わせや質問があった場合は、分かりやすい言葉と説明でお伝えすることを変わらず心が

けていきます。

今後は2周年イベントの開催も考えており、お子様を連れてファミリーで来ていただけるような内容を企画しています。イベントを企画する際にも当てはまることですが、どのような方々にどのようなメッセージを届けたいのかということをしかり考えて取り組んでいきたいと思ひます。

——住民の方からお話を伺う際の姿勢や、イベントを企画する際の考え方等、大変勉強になりました。本日はありがとうございました。



相談員支援センターの令和2年度チラシが完成しました。今年度から、相談員支援センター全体の業務内容を紹介したものに加え、自治体職員の皆様向け、教育機関の皆様向け、車座意見交換会のご案内の3つを追加し、4種類のチラシを作成しました。



相談員支援センターのご案内

自治体職員の皆様へ

放射線に関する相談や、自治体職員の方へ、専門家の派遣を行います。

「住民からの放射線に関する問合せに対応できるように研修を実施したい」
「住民から放射線に関する問合せに対応するために、専門家から測定方法や放射線計測機のアピールなど、研修を実施したい」と、研修の要望をいただきました。
まずはお電話にてご相談ください。

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター
☎0120-478-100

自治体職員の皆様向け

専門家派遣の例 南相馬市職員 意見交換会

6月23日、南相馬市小高保健福祉センターに専門家を派遣し、南相馬市健康づくり課の新任職員を対象に放射線に関する講義と意見交換を行いました。

専門家は公益財団法人原子力安全研究協会の松原昌平先生にお願いしました。

放射線に関する講義では、まず放射線の単位や種類、身の回りにある放射線の紹介等、基礎的な知識についての説明を行いました。次に、健康づくり課の業務にも関連するホールボディ・カウンタについて測定方法や測定結果の見方等のポイントを解説し、最後は住民から相談を受けることが想定される例として、南相馬市の空間線量や福島県産の食品について、「放射線による健康影響等に関する統一した基礎資料」や「暮らしの手引き」といった冊子を活用した説明方法を紹介しました。

児童・生徒・学生、教職員、保護者のための放射線セミナーのご案内

放射線に関する基礎知識や、放射線計測機について詳しく説明し、質疑応答を行います。

プログラム例

- ① 放射線の基礎知識
- ② 放射線計測機について
- ③ 放射線計測機の実演

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター
☎0120-478-100

教育機関の皆様向け

車座意見交換会のご案内

放射線に関する相談や、自治体職員の方へ、専門家の派遣を行います。

意見交換会の例

- 少人数での意見交換会
- 複数回を予定した意見交換会
- 放射線計測機の実演

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター
☎0120-478-100

車座意見交換会ご案内



意見交換では、参加者が気になることや疑問に思うことを話し、専門家が答えました。一例を紹介しますと、「南相馬市では飲料水を購入している人が多い印象を受ける」という質問を受け、「水道水に含まれる放射性物質の数値は水道企業団で設定している基準値以下であることや、セシウムには水に溶

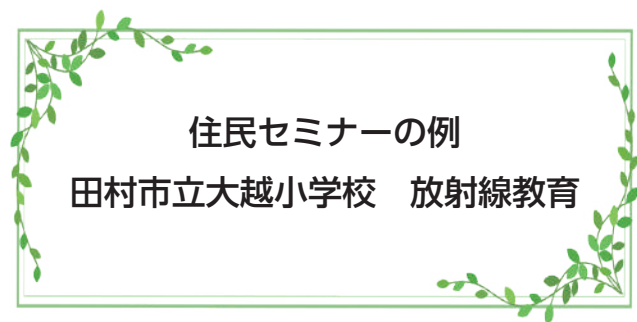
皆様の実情に合わせて様々な支援を企画いたしますので、放射線に係るお悩みや困りごとがありましたら相談員支援センターにご相談ください。



放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより

けにくい性質があること等から、飲用しても問題ないとされている。しかし、ペットボトルやウォーターサーバーから離れられない人がいることや、中には水道水の臭いが苦手だという人もおり、個人の嗜好の問題もあるので強要はできない」と回答しました。

参加者からは「放射線の基礎的な話について理解できた。また、専門家と意見交換ができて良かった」等の感想をいただきました。



7月2日、田村市立大越小学校にて6年生を対象に放射線教育を行いました。



講師に公益財団法人原子力安全研究協会の杉浦紳之先生をお迎えし、放射線量の測定実習と講義を行いました。

放射線量の測定実習は、グループごとにRadi (ラディ) という測定器とストップウォッチを用いて行いました。校舎の外に5か所の測定ポイントを設け、ポイントごとに1分間の測定を行い、測定結果を記録しました。児童の皆さんは、測定実習を開始してしばらくの間は慣れない作業に悪戦苦闘している様子も見受けられましたが、1か所、2か所と測っていくうちにコツを掴んできたようで、後半は楽しん

で測定を行っているようでした。また、普段自分たちが生活をしている場所にも放射線があることに驚きの声も上がっていました。

測定実習の後は、各グループの測定結果を貼り出し、日本各地、世界各地の放射線量と比較してわかることについて講師から説明しました。また、万が一たくさんの放射線が身近にある場合、どのように身を守るのか教えました。「放射性物質の近くにいる時間を短くすること」、「放射性物質から遠ざかること」、「放射性物質との間に物を置き放射線を遮ること」が大切だということがわかりました。



児童の皆さんからは「放射線はどこにでもあることがわかった」、「放射線から身を守る方法はないと思っていたけれど、3つの方法があることを教えてもらって怖い気持ちが減った」等の感想が挙げられました。児童一人一人が一冊懸命メモを取り、真剣に話を聞いている姿が印象的でした。

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより No.23

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6
いわきセンタービル5階、6階

フリーダイヤル：0120-478-100

FAX：0246-35-5158

E-mail：F-sodan@nsra.or.jp

